ビジネス＆パブリックコンペ2017 各賞プレゼン紹介

独創的アイデア 香川をもっと元気に

香川を盛り上げる独創的なアイデアを募り、事業化を支援する「香川ビジネス＆パブリックコンペ2017」（地域経済構想サポートプロジェクト実行委員会主催、香川大学大学院地域マネジメント研究科共催）の最終審査会が11月23日、高松市幸町の香川大で開かれた。5回目となる今年のテーマは「あなたが香川で実現したい、香川を"もっと"元気にするアイデア」。事業化を目指す「ビジネス」と行政に提案する「地域公共」の2部門に計64件の応募があり、1次審査（書類審査）を経た各部門5人ずつが公開プレゼンテーションに臨んだ。香川大教授、協賛企業の代表ら審査員が、市場ニーズなどを審査。各部門のグランプリ（賞金30万円）、審査員特別賞（賞金10万円）などが決まった。今年は地域スポーツビジネス特別賞の該当がなく、審査員特別賞を1枠拡大した。各賞のプレゼン内容を紹介する。

各賞の受賞者

最終審査会でアイデアやビジネスプランをアピールする参加者＝高松市幸町、香川大

グランプリ

ビジネス部門　岸田智子さん（三木町）

野ブドウ育て6次産業化

讃岐平野には「ウマブドウ」と呼ばれる野草が、畑だけの状態で多く自生している。ウマブドウはブドウ科の蔓植物で、正式名称は野ブドウ。全ての部位にさまざまな栄養成分が多量に含まれ、「本来の体に戻す力がある」とされている。特に必須アミノ酸、ポリフェノールの含有量は飛び抜けて高い。薬効は鎮痛、抗腫瘍、解毒作用などのほか、血流改善作用が優れていることが最近の研究で分かった。細胞をみずみずしくしたり、脂肪を排出させたり、肝臓の線維化を防いだりと、特効薬のない肝臓の味方にもなるとされている。内服、外用の両方で効果を発揮し、副作用の報告はまだない。日本では野草だが、中国では抗がん薬草と認められている。

香川県は少雨という気候、病虫被害を防ぐ海風をはじめ、住環境的にもウマブドウの栽培に適している。栽培方法は自然から与えられるもの以外は使わず、実生ではなく天然の自生種を育てる。子どもから病気の人まで「健康でありたい」と考える全ての人に「自然の免疫力」を届けたいためだ。

また、トマトを甘くする方法のように、適切なストレスを与えて育てる。植物も人と同じ。ものを簡単に与えるなど何の苦労もなければ、健全に育たない。どういうストレスをどれだけ与えれば、有効成分を引き出せるのかを見つけることが重要だ。

加工は高い栄養成分をどれだけ維持できるかにこだわりたい。いろいろ試した結果、成分が収穫時より増え、部分ごとに分離しやすく、用途に合わせた加工ができる方法を確立した。粉末、抽出エキスは県内OEMメーカーにご協力いただき、高成分の粉末や、粘性の高い面白い抽出物ができた。生薬として認証を得るには多額の費用が掛かるため、商品は美容や健康食品などを考えている。

栽培地は山間部の耕作放棄地を有効活用する。オーナーに農業への再挑戦、農地の貸し出しを打診し、地元の女性や高齢者にも手伝ってもらう。徐々に収量をアップさせ、加工品を増やしていきたい。さまざまな業種の人や県内OEMメーカーを巻き込み、みんなで生産、加工、流通まで展開し、経営の多角化、6次産業化を目指す。

さまざまな人の心の絆で耕作放棄地の再生を試みることは、地域活性化の一歩となる。そこから始まる野ブドウの商品化は、町を明るく元気にするのではないだろうか。

地域公共部門　田中未知子さん（高松市）

サーカス通じて人材育む

私が代表を務める「瀬戸内サーカスファクトリー」（高松市）は、フランス発祥の「現代サーカス」という新しい舞台芸術を日本に根付かせ、活動を通して香川に独創的で豊かな文化と人材を育て、世界と直接つながることを目標としている。

現代サーカスは演劇、ダンスなど、いろんな芸術の要素を取り入れている。オリンピックでは1992年のアルベールビルからオープニングに採用されている。私は北海道新聞社で催事事業に携わり、このサーカスに魅了された。退社後、現地取材を経て専門書を出版。2010年、瀬戸内国際芸術祭のイベント担当者として香川を訪れたのが縁で移住を決めた。国内で失われつつある芸能が生活の中に生きていると感服し、地方にこそ、生き生きとした特徴のある文化が生まれるのではないかと思ったからだ。

私たちの活動は、①滞在制作型の新しい芸術の創出②地方と世界が直接つながるネットワークづくり③体を鍛え、表現力を磨く一般向けの「フィジカルアート・トレーニング」④専門知識を持つアーティストや技術職の養成―が柱。これまで県内の特徴的な場所で公演したり、国際的に有名なアーティストとコラボレーションしたり、地域と関わりながら公演を重ねてきた。

今回、③④の人材育成や教育部分を本格的に始動させたいと思い、「フィジカルアート・トレーニング」デリバリー事業を提案したい。まず裾野を広げるため、子どもたちにサーカスを使って体を鍛えてもらう。この教育メソッドは一般的なスポーツと比べ、危機管理やバランスが求められ、パントマイムやジャグリングなど種目数が多いのが特長。最大の強みは子どもたちが無条件にやってみたくなるということだ。評価基準は競争でなく、技の達成度と表現力（個性）をいかに出せるかがポイント。丈夫でしなやかな体をつくり、いつもと違う次元に身を置くことで自分の体を再発見できる。

次のプログラムでアーティスト兼トレーナーを地元で養成。さらに上の段階では国内外で興行できるプロの育成を目指し、海外とのネットワークづくりを進めている。

現在は公演のプロデュース業が収入の柱。教室の開催で安定収入を増やすことができる。最終的には練習や創作ができる大きな体育館のような常設の拠点を持ちたい。

審査員特別賞

ビジネス部門　黒田雄三さん（観音寺市）

高品質ジビエ安定供給

イノシシ、シカなど野生鳥獣による被害が県内でも問題になっている。一方、狩猟によって捕獲した鳥獣の9割以上が廃棄され、悪臭や埋設に掛かる処分費用の増加など、さらなる問題を引き起こしている。香川からジビエの消費文化を発信し、資源として活用することで国内の有害鳥獣問題を解決に導くプロジェクトを提案したい。

課題は、▽高齢化などによる狩猟人口の減少▽県内でジビエを消費する下地がない▽調理法が普及していない―など。最近では若者や女性、外国人旅行者らから徐々に需要が高まっていることや、繁殖を抑えるために捕獲ペースを上げることが求められていることも分かった。

そこで高品質なジビエを安定的に供給し、消費者に気軽に食べてもらうためのビジネスプランを考えた。具体的には、▽狩猟の現場と市場の流通の円滑化▽高品質、美容効果などの魅力の訴求▽国産ジビエの普及に適した調理法の考案―など。県内の飲食店とのメニュー開発、消費者参加型のイベント開催などを経て、加工品の開発や販路拡大につなげたい。

ジビエ文化を普及させることで地域の活性化、狩猟者の所得向上につなげ、このプロジェクトを中心に狩猟ビジネスに人が集まる環境をつくりたい。

地域公共部門　香川大学大学院 地域マネジメント研究科 そうめん部

「島の光」起死回生図る

小豆島そうめんは400年の歴史を持つ産業で、中核ブランドは小豆島手延素麺協同組合が生産する「島の光」。日本の3大そうめんで唯一、天日干しの製法を残し、島の太陽、風、人が育んできた文化そのもの。しかし現在、最盛期（1979年ごろ）に比べ、組合員数は半数以下に、生産量は約25％まで落ち込んでいる。

課題は商品の9割以上が卸問屋を経由する流通の仕組みにあった。外部的には全国的な流通の再編で卸問屋の支配力が強大化し、組合に利益が出せる構造になっていない。内部的には卸問屋に依存する組合の旧態依然とした体制が要因と考えられる。

そうめん部は「島の光」が大好きで、味の違いが分かるメンバー。課題を解決するため、初めの一歩として、自主流通の確立と、卸問屋から自由になるための新商品開発から着手したい。「島の光」の起死回生を図ることは、小豆島そうめんの文化を維持するだけでなく、観光強化や後継者対策など島全体の活性化につながるものと考えている。ひいては、島の伝統と文化の継承に結びついていく。そんなビジョンを描いている。

今回、問題意識が公になることで組合内外の意識が改革でき、本質的な実践が始められると考える。

地域公共部門　若林友美さん（高松市）

転入支援の取扱説明書

結婚や介護、パートナーの転勤で香川に引っ越してきたけれど、生活情報が分からず困っている女性はたくさんいる。転入後すぐにマニュアル（生活情報）本があれば、生活が楽しく、ずっと住みたいと思うのではないかと思い、香川の「取扱説明書」のようなガイドブックの作成を企画した。

活動母体として今年9月、移住支援団体たかまつ「IJU」を立ち上げた。転入女性を対象に、ランチ会やお茶会などを通して知り合いづくりの場を提供している。活動は女性目線。なぜなら、女性は男性と違い、過程を楽しむのが好きで、目的や結果が違っても、人の関わりによる心の共有で喜びを感じられる。だから、こういう場が必要だった。

転入者のアンケートで「地域の風習やルールが分からない」という悩みが多かったが、親戚や家族がいても「常識」とされ、一から手探りしなければならない。SNSで情報収集はできるが、苦手な人もいる。そこで病院情報などを一冊の本で共有できたらいいと思った。

作成には男性や地元の人にも協力してもらう。転入者同士の情報交換で知りたい内容を集めて本に反映する。すぐに配布できるよう引っ越し、不動産業者などにも協力をお願いする。転入者が世代と世代を結び、人とのつながりが財産となるような世の中になることを期待している。

実行委員長総評

地元の魅力 再活用に評価

原真志・香川大学大学院地域マネジメント研究科長

「香川ビジネス＆パブリックコンペ」は、香川大学大学院地域マネジメント研究科が共催し、協賛企業や自治体・関係諸団体のご協力を得て実施してまいりました。5周年を迎えた今年は64件のご応募をいただき、書類に基づく一次審査を通過したビジネス部門5件、パブリック部門5件、計10件のプランについて、地域マネジメント研究科教員6名がブラッシュアップ指導を行い、その成果を公開審査会において発表いただき、各賞を決定いたしました。当初予定していた地域スポーツビジネス特別賞は該当なしとなり、代わりに5周年を記念して審査員特別賞を予定の2件から3件と致しました。

岸田智子さんのビジネス部門グランプリは、香川県に植生するウマブドウが持つ薬効作用に注目し、こだわりの栽培・乾燥・抽出法により健康茶や粉末抽出エキス、酵素発酵物として付加価値商品化して販売し、同時に耕作放棄地を再生して地域活性化を図ろうとするもの。あまり知られていないが香川の気候風土で育まれた優れた効能を持つ薬草への着眼点、ストレスで育てるなどすでに実験栽培を1年試行している準備状況、地域への大きな波及効果が期待される点が評価されました。

田中未知子さんの地域公共部門グランプリは、フランスで盛んな現代サーカスの要素を用いたフィジカルアート・トレーニングの教室をデリバリーすることを通して、地域に独創的で豊かな文化と関わる人材を育てていこうとするもの。現代サーカスが持つアートとスポーツを融合した魅力で自然と子供がトレーニングに参加したくなり、競争ではなく個性を伸ばすという特長、フランスからのアーティスト招聘などの実績と構築されたネットワークに基づく計画、地域の世界につながる大きな広がりの可能性が評価されました。

審査員特別賞のそうめん部のプランは、優れた品質と伝統を有しながら衰退の危機に瀕している小豆島手延素麺協同組合「島の光」を救うため、現在の流通構造が魅力ある地域の産品の事業革新を阻害している状況を克服すべく、オンライン直販など自主流通の確立と、地域の魅力とコラボした調理済み食材とそうめんのセット販売などの新商品開発によって「島の光」をリブランディングしようとするもの。地場産品の構造的課題に素麺組合、小豆島町と連携し産学官金の協力体制を組んで取り組む姿勢が評価されました。

二つ目の若林友美さんのプランは、結婚やパートナーの仕事を機に香川に転入したが生活情報が分からずに困っている女性を対象に「転入ガイドブック」を発行して、転入ママの香川での新生活を支援しようとするもの。支店経済の街の高松でケアが不十分な移住後の女性の支援という社会的意義、個人ボランティアでの3年間の支援活動をベースにネットワークが構築され、移住支援団体たかまつ「IJU」を設立しており、情報収集と紙面作成能力には十分な実績、準備状況が評価されました。

三つ目の黒田雄三さんのプランは、9割が廃棄されるイノシシ・シカを資源として活用し香川からジビエ文化を発信し、日本の鳥獣害問題を解決しようとするもの。各地で取り組まれているジビエビジネスの販路開拓の問題に焦点をあて、国産ジビエの魅力を引き出す調理法などの工夫を行い、捕獲の現場と市場を結ぶジビエ・バリューチェーンの構築により克服しようとする点が評価されました。

全体としては、地元のものでありながら知られていない、あるいは活用し切れていない価値ある資源や身近な生活ニーズに着目したもの、社会的価値や地域と世界をつなぐ視野を持ったプランが評価されたのが特徴です。対象も地場産業、食、文化、観光、生活、福祉、教育と多様な広がりを見せています。本コンペの他との違いは地域にこだわり、よりアイデアに近いものを育てようとする点がありますが、審査で販売価格設定など事業計画の詰めが甘いといった指摘がなされました。これは5周年を迎えてプラン実現への強い期待の反映と考えられます。このコンペは通過点であり、これを起点にプランの実現に向けて、協力支援を強化していきたいと考えています。

受賞者・テーマ一覧

―ビジネス部門―

●グランプリ●

・岸田　智子（三木町）
讃岐平野で眠る薬草「ウマブドウ」　生き抜いてきた植物には命が満ちている！

●審査員特別賞●

・黒田　雄三（観音寺市）
せとうち"やまくじら"プロジェクト

●ファイナリスト賞●

・濱崎　大駿（高松市）
薔物に光を！　香川に未来を！　そして日本から世界へ！
・松木　孝和、藤井　崇文（高松市）
うどん県は実は「茶の湯」県でもあった！　～"いにしえの讃岐文化"でインバウンド拡大！～「茶の湯体験パッケージとそのPR事業」
・西村　裕作（高松市）
福祉と観光・教育を融合させた「さぬき工房　J・ブルー（スイーツ＆雑貨）事業」興業プロジェクト

―地域公共部門―

●グランプリ●

・田中　未知子（高松市）
現代サーカスの要素を使った「フィジカルアート・トレーニング」デリバリー事業

●審査員特別賞●

・香川大学大学院　地域マネジメント研究科　そうめん部
小豆島そうめん中核ブランド「島の光」起死回生プラン
・若林　友美（高松市）
転入ママによる女性目線の転入後サポート

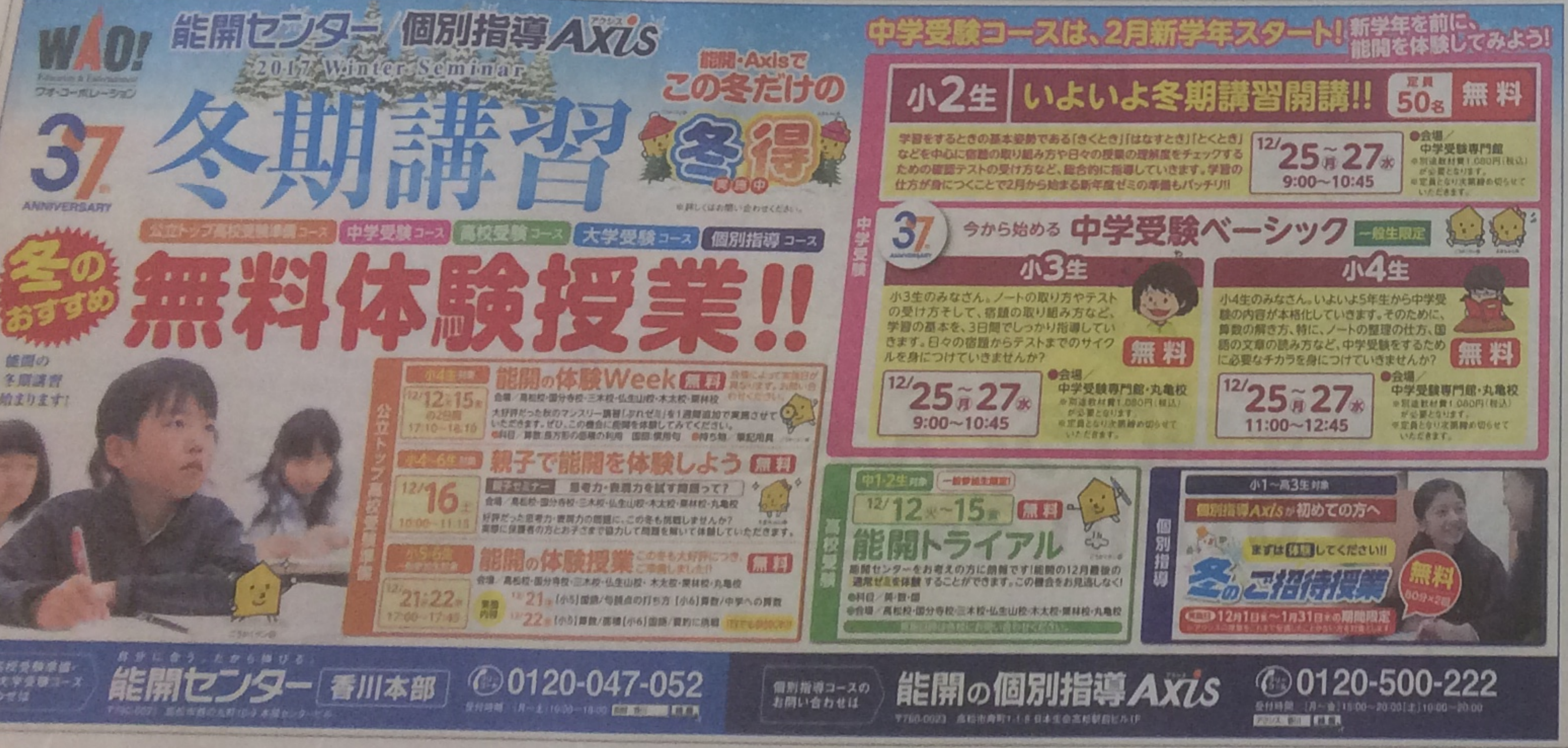
●ファイナリスト賞●

・平沢　季（高松市）
メディカル・スパ・リゾート＆ツーリズム～ばぁっちゃん（じっちゃん）、わろてんか！プロジェクト～フライト＆クルーズ
・松下　一哉（丸亀市）
子ども版MBAによる中心市街地活性化

協賛企業・法人一覧

（50音順）

▽愛染興業▽穴吹興産▽イトーキ四国支店▽香川銀行▽香川証券▽協和化学工業▽グッドラック・プロモーション▽広宣▽コカ・コーラボトラーズジャパングループ　四国コカ・コーラボトリング▽COCOLO TOKIO▽社会福祉法人サマリヤ▽JAグループ香川（JA香川県、JA香川中央会、各連合会）▽四国OAシステム▽四国旅客鉄道▽シニアライフアシスト▽新日本印刷▽新日本ツーリスト▽新日本有限責任監査法人▽セイア▽セーラー広告▽大和証券高松支店▽中央開発▽中国銀行▽日進堂▽ネクサス▽ネッツトヨタ高松▽野村證券高松支店▽百十四銀行▽ヒューマンアイズ▽富士ゼロックス四国▽保険見直し本舗▽ミサワホーム四国▽ムレコミュニケーションズ▽読売四国▽ワオ・コーポレーション



WAO! ワオ・コーポレーション　37th ANNIVERSARY
能開センター／個別指導Axis　2017 Winter Seminar
冬期講習
能開・Axisで この冬だけの 冬得
公立トップ高校受験準備コース　中学受験コース　高校受験コース　大学受験コース　個別指導コース
冬のおすすめ　無料体験授業!!
能開の冬期講習始まります！
能開の体験Week 無料　12/12〜15
親子で能開を体験しよう 無料　12/16（土）10:00〜11:15
能開の体験授業 無料　12/21・22 17:00〜17:45
中学受験コースは、2月新学年スタート！ 新学年を前に、能開を体験してみよう！
小2生 いよいよ冬期講習開講!! 定員50名 無料　12/25（月）〜27（水）9:00〜10:45　会場／中学受験専門館
今から始める 中学受験ベーシック 一般生限定
小3生 無料　12/25（月）〜27（水）9:00〜10:45　会場／中学受験専門館・丸亀校
小4生 無料　12/25（月）〜27（水）11:00〜12:45　会場／中学受験専門館・丸亀校
中1・2生 12/12（火）〜15（金） 無料 能開トライアル
小1〜高3生 対象 個別指導Axisが初めての方へ まずは体験してください!! 冬のご招待授業 無料 12月1日（金）〜1月31日（水）の期間限定
能開センター 香川本部 0120-047-052
能開の個別指導Axis 0120-500-222

ダイワの つみたてNISA
ダイワでコツコツ！積立投資
●当社の取扱商品等へのご投資には、商品ごとに所定の手数料等をご負担いただく場合があります。●各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。●各商品等の「契約締結前交付書面」等をよくお読みください。
大和証券 Daiwa Securities
高松支店 電話087-822-2222
〒760-8611 高松市番町1丁目1番1号（中央通り・紺屋町バス停前）
商号等：大和証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第108号
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

GRAND OPEN
2018年4月オープン
1〜3F 生まれ変わった新しいスタイルのデイサービスセンター　ロイヤルケア高松デイサービスセンター Terme テルメ
4〜7F 安心の24時間セコムのセキュリティ付賃貸マンション　ロイヤルレジデンス Primo プリモ
介護付有料老人ホーム・デイサービスセンター　ロイヤルケア高松
TEL（087）851-0155　〒760-0066 高松市福岡町4-28-27